

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500676
法人名	有限会社 S K R
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県伊予郡砥部町高尾田 1 0 0 8 - 6
自己評価作成日	平成26年8月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者のご家族や友人、地域の方がホームに24時間いつでも尋ねてこられても職員が笑顔でお迎えできる敷居の低いホームを目指しています。ご利用者の方と職員が接する時は「ゆっくり やさしく おだやかに」をモットーにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 10月の地方祭時には、神輿を入れて利用者が地区の子ども達にお菓子を配ることが恒例になっている。
- 「家に帰りたい」と言う利用者には、職員と一緒に付き添い、庭の草引き等を行うようなこともある。「墓参りに行きたい」と希望があれば、一緒に線香を買いに行く等して、ご本人が納得いくような支援ができるよう取り組まれている。
- 職員が、毎日食材の買い出しに行き、食事を手作りされている。献立が偏らないよう水曜日は麺、木曜日は卵料理、金曜日は味付けごはん、土曜日は肉等と決めておられる。利用者は、食材の下ごしらえやテーブル拭き、お茶を注いだり盛り付け等、それぞれにできることにかかわれるよう支援されている。職員は、利用者と食卓を囲み、同じ物を食べながら介助されていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホームさくら

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

済川 浩志

評価完了日

2014 年 8月 31日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			「すべてに感謝。ありがとう。」を運営理念にしている。すべての職員で理念を共有し、日々のケアで実践している。	
			(外部評価)	
			平成21年の法人代表者交代時に「利用者が最も気持ちよく感じられる言葉は何か」という視点から職員と話し合い、理念を作成しており、玄関に掲示されている。又、サブ理念は「ゆっくり、やさしく、おだやかに」と作成して居間に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			町内会に入っており地域の行事などの案内をして頂いている。地方祭への参加や日々の散歩時の挨拶などを通して地域との交流は行なっている。また、隣接する高尾田あったか広場様とイベントや運営推進会議を通して交流がある。	
			(外部評価)	
			法人代表者は、町内会に出席して地域との交流を図っておられる。10月の地方祭時には、神輿を入れて利用者が地区の子ども達にお菓子を配ることが恒例になっている。隣家の方が子どもを連れて遊びに来てくれることもあり、利用者はふれ合えることを楽しみにされている。介護相談員は、ボランティアとしても協力があり、お花やみかんを持って来てくれたり、紙芝居、絵本の読み聞かせ等でもかかわってくださっている。利用者は、来訪者をとても喜ばれるようだ。利用者からの希望があれば、近所のスーパーやコンビニに出かけて買い物できるよう支援されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議の中で看護師による認知症ケアの実践についての説明をした。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○ 運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議を「朋志会」と名付け、地域からは民生委員、町会議員、区長等、隣接する小規模多機能ホームの職員の方、利用者家族に参加していただきサービス状況等を具体的に報告している。また、その中で意見をいただき実践に活かしている。	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			「朋志会」は、ご家族が参加しやすいように土曜日、又は、事業所で入浴支援がない木曜日に開催されており、利用者の生活ぶり等が見えるように居間で行っておられる。夏祭りやクリスマス会と併せて開催することもある。3月には、町役場の職員を講師をお願いして「南海トラフ巨大地震に備えて」講話していただいた。ご家族には毎回案内しており、会議の内容は面会時や毎月送付する「さくら通信」に載せて報告されている。	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束についての正しい理解が出来るように、ミーティング時に話し合っている。言葉の拘束についても気をつけている。玄関は施錠せず外に行きたい方は職員同伴で自由に外出できるようにしている。	
			(外部評価)	
			運営推進会議には毎回、町議会議員が参加されており、防災等のアドバイスがある。月1回、介護相談員の訪問があり、利用者ひとりにじっくりお話を聴いてくれている。又、居間で皆と過ごして、気付きや前回との変化等について伝えてくれている。	
			(自己評価)	
			身体拘束についての正しい理解が出来るように、ミーティング時に話し合っている。言葉の拘束についても気をつけている。玄関は施錠せず外に行きたい方は職員同伴で自由に外出できるようにしている。	
			(外部評価)	
			日中は玄関、勝手口、ベランダの施錠はせず、ドアにセンサーを付けているが、使用はしていない。外に出たい利用者には、止めることはせず対応されている。勉強会では、言葉による拘束についても話し合っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての正しい理解が出来るように月1回のミーティング時にも機会があれば話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ必要な方はいないが地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度についての研修に参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用を予定している方については、ホームの見学や自宅への訪問をし、話し合いの機会を多く持ち、質問内容についても丁寧に説明している。介護保険改定の際は文書で通知している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には面会時に日常生活の中で要望や不安な事などを話していただいている。その内容については職員ミーティングの中で話し合い実践している。また、近況を報告するために写真とコメントを入れたホーム通信を各利用者ごとに作成し請求書送付時に同封している。 (外部評価) ご家族の来訪時、利用者の状況等を報告して「何でも言ってくださいね」と伝えて、意見や要望を聞いておられる。毎月発行する「さくら通信」は、現在、利用者個々に写真やメッセージを載せ作成しており、ご家族には「これまでより日々の過ごし方や様子が伝わり、分かりやすい」と好評のようだ。敬老会等の行事は、ご家族が参加しやすいよう、土曜日に開催されている。居室のタンスの中が乱れていることを気にするご家族があったことを機に、職員で話し合い「タンス・クローゼットチェック表」を新たに作り、取り組んだケースがある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 申送り時やミーティング時、また随時意見を聞く場を設けている。代表と職員間で個人面談も行い意見を聞くようにしている。	
			(外部評価) 管理者は、毎月のミーティング時や2ヶ月ごとの勉強会時に、職員の意見や提案を聞くよう取り組まれている。法人代表者、管理者ともに、日頃から現場で職員とのコミュニケーションを取ることに努めておられ、そのような取り組みが職員の定着につながっているようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の性格や勤務状況を把握するように努めている。また個人面談を行い具体的な意見を聞きやりがいのある就業環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修会の参加を呼びかけたり、研修ビデオを見たり、ホームにも、介護の本やDVDを置いていつでも利用出来るようにしている。また、ミーティングの中でテーマを決め勉強会を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 近隣の施設、病院等に挨拶をしてみたり、ネットワーク作りに努めている。また、隣接する小規模多機能事業所の運営推進会議に出席し意見交換している。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族、本人、関係者から生活歴や要望を聞き把握できるように話し合いを持ち安心して利用できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族の要望を聞き事業所としての対応などを詳しく説明している。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族が必要としているものや要望を理解し、事業所として何ができるかを話し合っている。また、日々の申送りやミーティングの中で話し合っている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の思いや不安、また、好きなこと、食べ物、得意なことなどを把握し生活の中で支えあう関係を築くようにしている。食事の好みなどはキッチンに掲示している。	
19		○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃から家族の方と話す機会を多く作り、本人からの希望や、訴えなどを家族に相談しながら、協力し合える関係作りに努めている。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族、友人等のなじみの人への電話や手紙、時には一時帰宅を希望される方は、職員と家族が話し合い、帰宅できるよう支援している。帰宅願望の強い方には自宅までお連れすることもある。 (外部評価) 「家に帰りたい」と言う利用者には、職員と一緒に付き添い、庭の草引き等を行うようなこともある。「墓参りに行きたい」と希望があれば、一緒に線香を買いに行く等して、ご本人が納得いくような支援ができるよう取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常の会話の中から利用者同士の関係を把握し、利用者同士の雰囲気を感じるようにしている。争いごとになった時にはすぐに仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、病院の転院などの相談が家族からあれば対応している。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の方と対話する機会をできるだけ多く作り、その中で食事の好みや、やりたいこと、行ってみたい所等の本人の希望や関心を聞きとり内容をまとめ掲示している。 (外部評価) 平成23年から「利用者の暮らしの情報」として食べたい物、行きたいところ、食事の量、嫌いなものを一覧表にして台所に掲示されている。又、平成26年4月からは「できること、興味のあること、笑顔が見られること」という表を新たに作成して、職員が日々のケアや利用者との会話の中で気づいたことを記し、日々の支援につなげておられる。法人代表者は今後さらに、「利用者個々の心の奥底にあるものを探って、その人らしい生活を支援していきたい」と話しておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約のときや、面会時に、家族から生活歴や生活環境を聞き把握するように努めている。本人からも日常生活の中で話を聞くようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活のリズムを把握するとともに、ご本人とも話し合う機会を多くもち現状を把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員が日常生活の中から、本人の要望を聞き、面会時には家族と話し合うようにしている。その内容を職員間でミーティング時に意見を出し合い、介護計画を作成して情報共有している。介護計画は3カ月に1回モニタリングを行い、6カ月ごとに見直している。	
			(外部評価) 6ヶ月ごとに「簡易アセスメントシート」をつくって、介護計画を作成されている。熱中症予防対策として、協力医のアドバイスをもとに、平成25年7月から日々の介護記録には、水分量が把握できるよう記録欄を設けられた。	さらに、介護計画が日々の実践につながりやすいような仕組み作りが期待される。
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録をし、必要事項は管理日誌や申し送りノートに記入し、毎出勤時に確認するようにしている。その中で必要であれば毎月のミーティング時にカンファレンスを行い情報を共有し見直しに活かしている。	
			(自己評価) 本人や家族の状況に応じて帰宅したい方には家族に相談し自宅までお連れしたり、外出や買い物に行きたい方などにはその都度柔軟な対応ができるように心がけている。	
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に応じて帰宅したい方には家族に相談し自宅までお連れしたり、外出や買い物に行きたい方などにはその都度柔軟な対応ができるように心がけている。	
			(自己評価) 運営推進会議を活用したり、民生委員、町会議員、地域のボランティアの方や地域の職員等と情報交換している。	
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議を活用したり、民生委員、町会議員、地域のボランティアの方や地域の職員等と情報交換している。	
			(自己評価) 運営推進会議を活用したり、民生委員、町会議員、地域のボランティアの方や地域の職員等と情報交換している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 2週間ごとに1度のホームの主治医の往診がある。緊急時には24時間対応で往診していただいている。必要に応じて職員が同伴して通院もしている。歯科は週に1回往診がある。入居前の主治医を継続される方には通院の支援をしている。	
			(外部評価) 現在は、利用者全員、協力医がかかりつけ医となっている。毎週ある歯科の往診時には、口腔掃除や歯の手入れ等も行ってもらっている。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師が1週間に3日程度勤務し、日常の健康管理を行っている。不在時は、いつでも連絡がとれ相談できるようにしている。また、緊急時や必要時には、すぐに対応できる体制をとっている。	
			(外部評価)	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入退院時は主治医、関係医療機関、家族と話し合い、治療方針などの情報交換や相談をしてできるだけ早期退院できるよう支援している。	
			(外部評価)	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に重度化したときに事業所としてどこまでできるかを説明している。常時医療が必要な場合は医療機関に入院されるケースがほとんどだが、ターミナルケアについても主治医、家族と十分な話し合いをもち、チームケアで取り組んでいる。	
			(外部評価) 現在、利用者が重度化した場合、病院への移行を希望するご家族が多いようで、「最期までここで」と望まれていたケースもあったが、最後は病院を選ばれたようだ。利用者の中には、日々の会話の中で「最期まで事業所で過ごしたい」と希望するような方もあり、今後は、事業所の「重度化した場合における(看取り)指針」等にも沿いながら、ご家族と一緒に勉強したり話し合ってみるような機会を作ってはどうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 必要時やミーティング時に対応の訓練をしている。緊急時のマニュアルを作成し職員全体に周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 職員全員参加し夜間想定 of 通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施している。消防の担当の方に参加いただき、意見交換している。運営推進会議の中で砥部町の危機管理係の方による「南海トラフ巨大地震に備えて」の題目の防災講話をして頂いた。 (外部評価) 年2回、夜間想定で避難訓練を実施されている。隣接する他法人の小規模多機能事業所や、近隣の方にもいざという時の協力をお願いしている。5月に運営推進会議と避難訓練を合わせて行った際には、消防署の方から避難経路についてアドバイスがあり、今後は、ベランダから外へ避難しやすいよう、改修することになっている。	事業所では「大規模災害マニュアル」を作成しており、今後は、マニュアルに沿って地震や風水害等に備えた避難訓練等も重ねていかれてほしい。又、備蓄についても検討していかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入浴、排泄などのプライバシーを守るための配慮を、ミーティングの中で話し合い、利用者一人ひとりに合った声掛けをするように努めている。職務上知り得た個人情報は外部に漏らさないように、入社時に職員全員から誓約書に署名捺印してもらっている。 (外部評価) 調査訪問時、食事に時間がかかる利用者や片手が不自由で食べにくそうにしている方に、職員は見守りながら状況を見て声掛けしたり介助等しながら、利用者のペースに合わせて支援されていた。入浴は、同性介助を心がけて支援されている。失禁で濡れた衣類等を居室のベッドに干す方には、ご本人の気持ち等にも配慮して声をかけ洗濯されている。玄関の掃除を日課にしている方やクリスマスにはサンタクロース役になる方等もあり、個々の人柄を尊重しながら、役割や出番を見つけて支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人の思いや、希望を聞き取りできるだけ自己決定できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者本人のペースで日常生活できるように努めている。外出、買物、入浴等本人の希望にそえるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣される時には着る服などもお聞きして、本人に選んでもらっている。理容、美容についても、要望をお聞きするように努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常生活の中でどんな物が食べたいかお聞きして、利用者の情報を掲示しており、できるかぎり要望にそえるようにしている。料理の下ごしらえ、テーブル拭き、お茶入れ、下膳等をできる限り一緒に行なうようにしているが、以前よりできる方が少なくなっている。 (外部評価) 職員が、毎日食材の買い出しに行き、食事を手作りされている。献立が偏らないよう水曜日は麺、木曜日は卵料理、金曜日は味付けごはん、土曜日は肉等と決めておられる。利用者は、食材の下ごしらえやテーブル拭き、お茶を注いだり盛り付ける等、それぞれにできることにかかわれるよう支援されている。職員は、利用者と食卓を囲み、同じ物を食べながら介助されていた。誕生日は、ご本人に献立の希望を聞き、ステーキやお寿司等、希望に応じて支援されている。近日にある誕生会には、利用者の希望により、皆で回転寿司に出かけることになっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量を毎食後記入している。水分摂取量は随時記録している。食事は一汁三品を目安に調理している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、口腔ケアの流れが自然に出来るように声掛けをし、能力に応じて介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄を記録しパターンを分析し、ミーティング、申し送りの中で話し合い、時間を決めトイレ誘導するようにしている。失禁の少ない方は必要時以外は布パンツに努めている。	
			(外部評価)	
			入居時には、排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握に努めておられ、声かけや誘導にてトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			必要に応じて繊維の多い食品を取り入れたり、歩行などの運動や腹部マッサージをしたりしている。それでも改善できない場合は主治医に相談し緩下剤を服用していただいている。	
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			午後からの希望が多いので、希望を聞きながら支援している。また入浴を拒否される方には、時間を置いて声掛けしたり、別の職員が声掛けをしたり工夫しながら支援している。週3回を目安にしているが、毎日希望される方はできる限り希望にそうようにしている。	
			(外部評価)	
			2日に1回、現在は午後が入浴時間となっている。毎日入りたい利用者には希望に沿って支援されている。好みのシャンプーや化粧水、入浴剤を使用する方もある。時に入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず、時間をずらしたり、職員が入れ替わったりして、本人のストレスにならないような支援に努めておられる。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			日中は本人の希望で体操、下肢ストレッチ、室内歩行、散歩等で活動的に動けるように支援している。本人のペースで休息したり、眠れるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ファイルを作り職員全体が利用者の薬の効能、副作用について把握できるよう努めている。処方が変われば管理日誌に記入し職員全員で情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の出来ること、興味があること、好きなことを把握し情報を掲示していつでも確認できるようにしている。また、集団の中で料理の下ごしらえ、掃除、体操の先生等その方の役割を活かせるよう声掛けをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候の良い時期には近所を散歩している。外出や買い物などの希望があるときにはその都度対応している。また、ドライブや季節の花を見に出かけることもある。車椅子も利用し、出来るだけ外の空気を吸えるよう工夫している。 (外部評価) 午前中は、ラジオ体操をしたあと、リハビリ体操、散歩を行うことが日課となっており、暑い時は、利用者がお好きだという軍歌を流しながらの、室内を歩く時間を作っている。四季折々に、梅や桜、菜の花、アジサイ等、花見に出かけておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物の希望があればその都度一緒に出かけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要時はいつでも、ホームの電話を使用して電話をかけたり、手紙や年賀状を出したり、できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			リビングにはソファを置きくつろげるようにしている。和室には冬にはこたつを置き、季節感を出している。また、季節の花を利用者に生けていただき飾る事がある。音量や室温に関しては利用者の方によって個人差があるのでその都度声掛けして快適かどうか聞くようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			ソファや和室を利用されたり食卓や居室で思い思いに過ごせるようなスペースを設けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			自宅で使用されていた物を自由に持ち込んでいただいている。テレビ、時計、家族の写真、昔の写真などなじみの物を持ってこられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			その人にとって何がわかりにくいかを探出し、職員間で話し合い改善点があればその都度対応している。	